

## 西部支部活動報告 冬の天体観望会

今村 守孝<sup>1</sup>・赤川 木ノ花<sup>2</sup>

西遠女子学園天文地学部の部員数は中学高校合わせて3人しかいないため、観望会や合宿の実施が容易ではない状況にある。そこで2017年12月の観望会は静岡県地学会西部支部の行事として県地学会会員や他校の生徒も参加できるようにして計画した。2017年12月20日に、本校屋上の天文台で実施した。本校の天文台にはタカハシ TOA-130 という高性能口径13cm 屈折望遠鏡が設置され、さらに赤道儀もタカハシ NJPTemma2 (図1) という天体の自動導入可能な機種であるため、街中の星のあまり見えない環境でも目標天体を確実に導入可能である。参加者は、地学会会員4名(青島, 加藤和, 加藤国, 森田), 西遠女子学園生徒4名, 浜松学芸中学高等学校から生徒3名と引率教員1名, 磐田南高校から生徒2名と引率教員1名, さらに仕事で残っていた西遠女子学園の教員4~5名が観望会に参加した。また天文教育普及研究会会員の藤田喜章さんに機器の操作や天体の説明など、観望の手伝いをお願いした。以下の内容は参加した生徒の感想である。



図1. タカハシ NJPTemma2 赤道儀 (西遠女子学園屋上)

「私の所属する天文地学部では、流星の電波観測をしたり、学園祭でのプラネタリウム説明を行ったりして天文について学んでいます。

昨年の12月20日に冬の星座、星雲星団を見ました。まず最初に観たのはおうし座の1等星アルデバランです。やや赤色の明るい星で観察しやすく、初めて天体観測を行った部員から歓声があがりました。次におうし座にあるスバルをみました。スバルは肉眼でも6~7個の星が集まっているのが見えますが、望遠鏡でみると青白い色や肉眼では見えない星も見えて面白かったです。次に球状星団M15とアンドロメダ銀河を見ました。M15では球形に星がかたまっているのが分かりました。アンドロメダ銀河は浜松市の街中で見たため写真で見るとような渦巻きは確認できず、中心付近の白い塊が見えただけでした。きれいだったけれど少し残念だったので、いつか写真のような形の銀河を見てみたいです。ふたご座では二重星のカストルと散開星団M35を観察しました。カストルはなかなか二つに見えず、私は一瞬しか別れて見えませんでした。初めてみることでよかったです。散開星団は細かい星の集団でまばらにみえました。最後に見たオリオン大星雲は前に写真で見たときに赤く光っていたものが、実際に肉眼で見ると白く光っていたので驚きました。これがこの日に見た星の中で一番きれいでした。

1 西遠女子学園天文地学部顧問教員

2 西遠女子学園中学3年

この日はたくさんの星座も見ましたが、どれも幻想的で魅力的でした。冬の星座は明るくきれいで空も澄んでいたなので、はっきり見ることができました。屋上で観望を行ったので、風も冷たくとても寒かったけれど、それに勝るような体験ができたと思います。」